

有明海漁業実態調査

コノシロ漁獲状況調査

土井 大生

コノシロ *Konosirus punctatus* は、有明海の重要な水産資源の一つであり、最盛期には約 2,000 トンの漁獲量があったが、2017 年には 546 トンまで減少している¹⁾。コノシロを今後も持続的に利用していくためには、資源管理対策を講じていく必要があるが、これまで有明海における、コノシロの漁獲動向に関する研究は、田北²⁾や寺田ら³⁾の報告に限られており、漁獲動向について把握するには、更なる情報の蓄積が必要となる。そこで、漁業者に操業船日誌の記入を依頼し、操業状況について調査したので報告する。

方法

調査は、佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所に所属する投網漁業者4名を選定し、2025年4月～2026年3月までの期間、出漁日に操業場所、漁法、漁獲量について操業日誌の記入を依頼した。得られた情報を基に漁法別に毎月の平均漁獲量（1人当たりの漁獲量）およびCPUE（1人1日当たりの漁獲量）を推定し、漁獲状況を明らかにした。

結果

投網における月別の平均漁獲量およびCPUEを図1に示す。投網は、資源管理を目的に休漁した4月28日から5月6日を除き周年行われており、平均漁獲量は、7月から9月にかけて約1,009kgまで増加した。その後12月までに0kgまで低下するも、3月で約500kgまで増加した。CPUEは、平均漁獲量同様の傾向を示し、0～174.2kg /人/日で推移した。

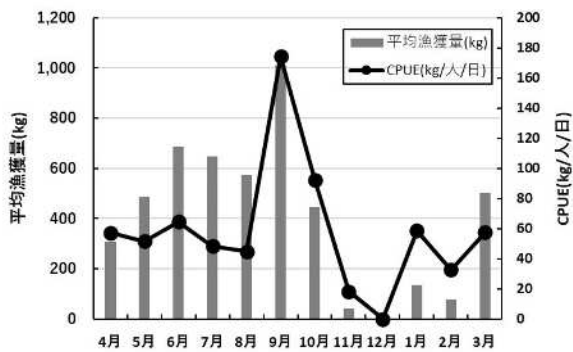


図1 投網によるコノシロの平均漁獲量およびCPUEの推移

文献

- 1) 農林水産省(1980～2019):第26～67次佐賀県農林水産統計年報.
- 2) 田北徹(1978):有明海産コノシロの増殖生態I,長崎大学水産学部研究報告.(45),5-10.
- 3) 寺田雅彦・伊藤史郎(2017):有明海におけるコノシロ投網漁業の実態,佐有水振セ研報.(28),93-98.